

目指すは、誰もが外国人に気軽に話しかけることができる町づくり!

ハートを
こがせ!

Vol.08

島根県立松江北高校 高齢者向け英語教室

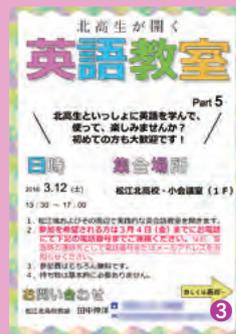
高齢化が進むからこそ 高齢者が活躍できる場をつくり 地域の活性化に貢献したい



1 英語教室では、生徒が受講者にマンツーマンで、道案内の仕方や観光名所の名称など、観光案内で用いることが多い英語表現を指導。ESSの生徒も参加し、この日の受講者13人に対応した。

2 教材は、企画・運営役の生徒がESSの協力を得ながら作成した。道案内や観光案内といったシーン別に、役立つ表現や会話例を厳選。

3 高齢者の目に留まるように、文字の大きさや色を工夫してチラシを作った。



4 外国人に観光案内をする受講者をサポートするためには、生徒自身も地域の歴史や文化を知る必要がある。「もっと地域のことを勉強しなければ」と、生徒は言う。

5 模擬観光案内では、基本的に、受講者が観光客役のALTを案内し、生徒は受講者が分からない表現や単語をフォロー。頼られる立場になることで、「しっかりしなければ」と意識も自然と高まる。

学校で学んだことを 地域の人々と外国人の橋渡しに 役立てるんだ

高齢化が進む地域の活性化に向けて、自分たちに何ができるのか。島根県立松江北高校の2年生5人が考えたのは、外国人に英語で観光案内ができるよう、地域の高齢者に高校生が英語を教える英語教室の実施だった。その実践報告を「国際高校生フォーラムin倉吉2015」(*)で行ったところ、最優秀賞を受賞。生徒は活動の継続を決意した。そして、ほかの生徒も巻き込み、全5回の英語教室を開催。最終回には、松江市内の名所・旧跡を巡る、外国人への模擬観光案内を実施した。自分たちのアイデアを実現させようと、試行錯誤して活動をつくり上げた生徒たちの姿を追う。

「自分たちにもできる!」と
信じたことが活動の支えになった

生徒のインタビューは P.30

*全国の進学校の生徒を招いて、社会の諸問題についてプレゼンテーションを行う大会。鳥取県立倉吉東高校で毎年開催されている。

ハートを
こがせ!

Vol.08

島根県立松江北高校

高齢者向け英語教室

メンバーが支え合い 地域への思いを カタチにしていこう

「続けてみなさい」という
校長先生の一言に発奮

社会の諸問題の解決策を高校生が考え、発表する「国際高校生フォーラム」。その参加のため、学
校代表に立候補した2年生の5人は、3つの課題
を共有していた。1つめは地域の高齢化、2つめ
は国際文化観光都市・松江の魅力のさらなる発信、
3つめは自分たちの課題として、高校での学習と
社会との結びつきが実感しにくいことだった。そ
れらの課題の解決につながる具体策として考えた
のが、外国人に英語で観光案内ができるよう、地
域の高齢者に高校生が英語を教える英語教室だ。
「高齢者が意欲的に参加できる活動にして、地域
の活性化に結びつけるとともに、教える側の私た
ち高校生は、授業での学びが社会に役立つと実感
できる場になると考えました」(遠藤彩也音さん)
そうして、2015年7月に英語教室を開催。

その過程を8月の「国際高校生フォーラム」で発
表した。発表では「継続していききたい」と意気込
みを語ったが、地域の協力が不可欠な活動である
ため、実現への不安も大きくあった。そんな生徒
たちを後押ししたのが、泉雄二郎校長の「続けて
みなさい」という一言だった。
「私たちにだってできる。やってやろう!」と
いう気持ちになりました」(遠藤清也音さん)
**自分たちでゼロからつくるからこそ、
力を合わせて、必死に考えた**

早速、準備を開始した。年度末までに4回の英
語教室を計画し、うち最終回は実践編として、松
江市内の名所での模擬観光案内を実施することに
した。ただ、その具現化にいざ動き出すと、英語
教室の告知や教材作成、受講者への対応、観光案
内のルートづくりなど、やるべきことの多さに戸
惑ったと、リーダーの金井貴佳子さんは言う。

教師の思い

とことん任せることで
生徒は主体的になり
アイデアが湧いてくる



島根県立松江北高校
田中伸洋
たなか・のぶひろ

教職歴20年。同校に赴任して5年目。
進路指導部副部長。2学年主任。国語科。

生徒を信頼し、
どこまでできるかを見守った

地域の人々の参加があつてこそその活動で
したから不安もありましたが、「生徒だけ
の力でどこまでやれるか見てみよう」とい
う気持ちで、生徒を信頼して任せました。
万一の場合は教師がすぐ対応できるように
備えていましたが、ほとんど出番はありま
せんでした。

活動は、私の想定以上に中身の濃いもの
になりました。例えば、最後に実践の場と
して模擬観光案内をするのはよい案だと思
いましたが、受講者と一緒に名所を訪れて、
そこに外国人観光客がいなかったらどうす
るのかと心配していました。すると、その
ケースに気づいたのか、A.L.Tに協力を依
頼し、事前に外国人である彼らを観光客役

「それでも、できるだけ先生に頼らず、自分たちの力でやりきろうと必死で考えました。そうしたら、意外と前に進むことが分かったんです」

最初は衝突もあったと、角森匠己つのもりたくみさんは語る。

「誰かが突っ走ったら皆で止め、疑問は曖昧にせず話し合ううちに、互いの個性が分かってくる。他のメンバーの長所から学ぼうという気持ちで取り組み、課題を1つずつ解決していきました」

例えば、模擬観光案内の当日に名所に行っても、外国人観光客がいるとは限らない。そこで、同校のALITに相談し、県内のALITに協力を依頼。さらに各自が母校の中学校を訪れ、ALITに直接協力を求めた。また、英語教室の運営は5人では対応しきれないため、ESSの生徒に指導役をお願いしたり、受講者が来校した時の駐車場への誘導や応対をボランティアサークルに任せたり、ほ

模擬観光案内では、受講者、外国人観光客役のALIT、生徒がグループになり、松江城や武家屋敷など、外国人観光客に人気の高い名所を巡り、英語でその歴史や文化について説明した。移動中のちょっとした雑談も、生徒にとっては英語でコミュニケーションを取る絶好の機会となっていた。

かの生徒にも協力を積極的に依頼した。

そして迎えた模擬観光案内当日。参加してくれた受講者13人とALIT10人が4、5人ずつのグループになって回った。終了後には、「生徒のフォロワーがあったので、外国人と楽しく話せた」「今後も続けてほしい」といった感想が多数寄せられた。

「自分たちにこんな大きな活動を実現できる力があるなんて、びっくり。教育に携わる仕事への思いが一層強まりました」(仲井慧悟けいごさん)

16年度は後輩にバトンタッチし、地域活性化の活動をより充実させたいという希望を持っている。

金井貴佳子

かない・たかこ

2年生。リーダーとして活動を引っ張った。メンバーをまとめる中で、大学では組織論を学びたいという思いを持つようになった。

仲井慧悟

なかい・けいご

2年生。活動の企画、教材作成などを担当。将来は教育関係の仕事に就きたいと考えている。

遠藤彩也音

えんどう・あやね

2年生。実務を担当。活動を通して強い達成感を得て、周囲の支えに感謝するとともに、挑戦することの大切さに気づいた。

遠藤清也音

えんどう・きよね

2年生。実務を担当。人前に出るのが苦手だったが、活動を機に、失敗を恐れずにチャレンジする気持ちが芽生えた。

角森匠己

つのもり・たくみ

2年生。実務を担当。意見を伝えることが苦手だったが、言わなければ始まらないと気づいた。将来の夢は、海外の過疎地に学校を建てること。

として集めたのには感心させられました。

**勇気を出して 一歩を踏み出せば
どんな世界は広がっていく**

最初は地域に出ていくことに不安な様子を見せていた生徒たちでしたが、一歩を踏み出したなら、世界がどんどん広がっていくことを実感したようです。そうした経験を通して、生徒たちの姿は随分変化したと感じます。人と話すのが苦手と言っていた生徒は、地域の人と接するうちに社交性やコミュニケーション力を高めていったようです。また、のんびりと考えるタイプの生徒が、常に先を読んで動くようになったことにも驚かされました。活動を通して自分の課題を自覚し、互いのよさから学び合う姿勢が成長につながったのだと思います。

島根県立松江北高校

◎教員伝習校変則中学校として始まり、2016年度に創立140周年を迎える。校訓は「質実剛健」。授業改革と地域課題解決型キャリア教育を通して、社会に貢献できる人材の育成に努めている。

◎設立 1876(明治9)年

◎形態 全日制/普通科・理数科/共学

◎生徒数 1学年約320人

◎2016年度入試合格実績(現浪計)

国公立大は、東京大、京都大、大阪大、鳥取大、島根大、島根県立大などに188人が合格。私立大は、慶應義塾大、早稲田大、同志社大、立命館大、関西大、関西学院大などに延べ295人が合格。

◎URL <http://www.matsuekita.ed.jp>